

広報  
TAGAWA  
たがわ



▲被爆3世の苗木を寄贈した駒鳴さん、2世の柿の木を育てた海老沼さん、3世の苗を育てた川内さん(左から)



広がれ  
平和の波紋

被爆3世柿の木を植樹

5月2日、長崎で被爆した柿の木から育った3世の苗が、市民会館の中庭に植樹されました。

被爆3世の苗は、長崎原爆の被爆者で、一昨年、田川市の平和事業でその体験を語った駒鳴秀光さん(大任町)が、田川市に寄贈したものです。

被爆2世の柿の木は、爆心地から900mで被爆した柿の木から採った種を、樹木医の海老沼正幸さん(長崎市)が育てたもの。被爆3世の苗は、その2世の種から、長崎で被爆した川内七雄さん(苅田町)が育てたものです。苗の存在を知った駒鳴さんが、その一鉢を川内さん

から譲り受け、「子どもたちの平和教育に役立ててほしい」と市に寄贈しました。

植樹式には、海老沼さん、川内さん、駒鳴さんも参加。2世の苗約1000本を国内外で植樹してきた海老沼さんがあいさつ。「2世を植樹するとき、平和の輪が水の波紋のように広がってほしいと話してきました。3世の植樹がここが初めてです。願っていたことが実現してうれしい」と感慨深げに話しました。

海老沼さんらのあいさつのと、大藪小と鎮西小の児童ら15人が、恒久平和への願いをこめ、苗を丁寧に植えました。

6/1

平成20年6月1日  
(2008年)

NO.1240